

> WinActor®の特徴

Point 1 既存のシステムに手を加えず、PC1台から導入可能

これまでお使いの業務システムや基幹システムを大きく変更する必要なく、スムーズかつスピーディーにWinActor®を導入いただけます。ご利用はPC1台、1ライセンスから承っております。

Point 2 日本企業のワークフローにフィットした純国産RPA

日本企業特有の事務処理ワークフローを研究し尽くして開発されており、業種・業態を問わずさまざまな場面でご利用いただけます。また、トラブル対応も迅速で、万全のサポート体制を整えています。

Point 3 さまざまなケースの入出力処理にも柔軟に対応

たとえば「DBサーバー上の住所リストを元にWebオンラインマップを開き、その地図画像をワードの作業指示書へ挿入後、サーバーへアップ」など、アプリの種類を問わず、連携した自動化ができます。

> WinActor®導入プロセスと支援

評価



導入



運用

現行の業務プロセスを洗い出し、人の判断の有無で整理する。

整理された業務プロセスに適した自動化シナリオを作成。

作成したシナリオを実際の利用環境で動作。必要に応じてシナリオの保守・修正を行なう。

What's New

フローティングライセンスに対応 **New**

これまでの利用端末を制限するライセンス形態に加え、同時利用数を制限するライセンス形態に対応

WinActor® ver.5.1の新機能:

Chrome, Microsoft Edgeブラウザ連携用ライブラリの追加 **New**

ブラウザに開発者向けツールを追加し、WinActor®のブラウザ関連のライブラリを用いることで、画像マッチングやエミュレーション以外の方法でも、ChromeやMicrosoft Edge上での操作を自動化することが可能になりました。

※Internet Explorerのひな形作成機能とは異なります。

製造元

NTTアドバンステクノロジー株式会社

ソリューション第二事業本部ビジネスロボティクスビジネスユニット
〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー
E-mail: winactor@ml.ntt-at.co.jp
http://www.ntt-at.co.jp/product/winactor/

※ WinActorはNTTアドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。
※ 記載された会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
※ 本カタログ記載の内容は予告なく変更することがあります。
※ カタログ記載内容 2018年5月現在



販売元

	日本ソフト開発株式会社 https://www.nihonsoft.co.jp
本社	〒521-0015 滋賀県米原市米原西23番地 TEL 0749-52-3811 FAX 0749-52-3804
東京	〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-17 TEL 03-5473-0036 FAX 03-5473-0038
大阪	〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14 TEL 06-6350-3505 FAX 06-6350-3511

※購入については各販売代理店にお問い合わせ下さい。

WinActor®に学ぶ

RPA導入のヒント

RPA導入には、現場での業務の洗い出し、シナリオ作成者の育成など、さまざまなポイントがあります。ここではWinActor®の導入事例を交えて、成功するRPA導入のヒントをお伝えします。

> RPA導入の3つのポイント

Point 1 RPA化できる業務の洗い出し

現在の業務プロセスを洗い出し、人の判断が必要な作業と定型的な作業に切り分けます。その定型的な作業をWinActor®で自動化します。

Point 2 シナリオ作成者の育成

対象業務のプロセスが複雑であったり、エラー対応の場合わけなどによって自動化のシナリオが複雑になるのを避けるため、専任のシナリオ作成者の育成が必要です。

Point 3 社内でのシナリオの横展開

既存シナリオの活用、シナリオ作成者間でノウハウを共有することによって、業務プロセス改善活動を社内展開し、意識改革することができます。

※「シナリオ」とは、PCにどんな自動操作をさせるかWinActor®に記録した指示書です。



Case 01

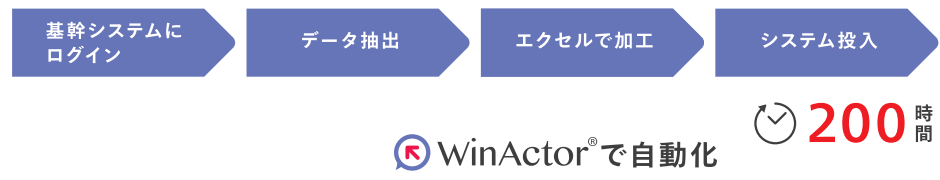
総務人事の基幹システムにあるデータ加工業務

基幹システムを変更することなく、定型業務であったデータ抽出と加工を自動化。その結果、担当者はさらに本来人が行なうべき創造的な仕事に取り組めるようになった。

→ 導入前 [問題]

- 定型化された作業が多く、社員の稼働が逼迫していた。
- 業務量が多く、本来取り組むべき専門的な業務まで手が回らなかった。
- 時間の多くを定型業務が占め、社員のモチベーションが下がっていた。

Before



After



→ 導入後 [効果]

- WinActor®での自動化により、最大年間200時間の作業がほぼ0時間に削減できた。
- 空いた時間を専門知識が必要な業務に当てることができた。
- 定型業務が減り、仕事に対する社員のモチベーションが上がった。
- 社員に業務プロセスを見直す視点が身についた。

Case 02

共通業務の自動化

出張旅費検索など、社内システム入力操作の共通業務を自動化。その結果、メインの業務に集中でき、定時に作業が完了できるようになった。さらに、そのシナリオを横展開することで全社的に稼働を削減することができた。

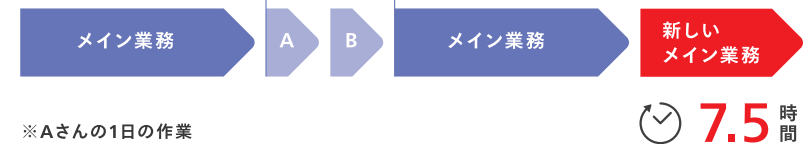
→ 導入前 [問題]

- 社内の共通作業に時間がとられ、メイン業務の時間が足りなかった。
- 共通業務にさえぎられて、メイン業務に集中できなかった。
- 共通業務を全社員が行なわなければいけないため効率が悪化した。

Before



After



※Aさんの1日の作業

→ 導入後 [効果]

- 共通業務を自動化することで、残業して行っていた業務を時間内に終わらせることができた。
- 業務を遮っていた処理を自動化することで、メイン業務に集中することができ効率が上がった。
- 一部署で作成した業務自動化のシナリオを横展開することで全社的に効率化が図れた。